

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 06

学校名・団体名	つくば市立紫峰学園北条小学校
HPアドレス	<a href="http://www.tsukuba.ed.jp/~houjou/">http://www.tsukuba.ed.jp/~houjou/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	外国語学習の充実によるコミュニケーション力の 育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成30年4月に義務教育学校の開校に伴い、7小2中が統合することになる。本学園の児童生徒の課題としてあげられる「コミュニケーション力の未熟さの状況を改善するために、外国語活動の授業を通して他校同学年児童との交流学习や、外国語（英語）を用いた中学生との異学年交流を設定することで、多様な体験学習の機会を設定できる。</p>	

外国語活動の授業の充実を期した取組を、授業研修を中心に、以下のように実施することとした。

期日	授業学級	ねらい・内容	備考
5/12	5年1組	ゲーム的要素のある言語活動と文字指導を取り入れた授業実践	校内研修 市教委主催外国語活動指導法研修講座
7/25	(教職員)	外国語活動の授業に必要なクラスルームイングリッシュの練習	紫峰学園(4小学校合同)研修 市教委 AET が講師
11/7 11/15	5年1組	英語使用の必然性があるゲーム的要素のある言語活動を取り入れた授業実践	茨城県外国語活動指導法研修への協力 茨城県県南地区の各市から参観者
11/15	6年1組	中学校英語教諭と6年1組担任のチームティーチングによる授業実践 (12月11日の児童生徒の交流授業の前段階となる実践)	
12/11	6年1組 7年2組	6年生と中学1年生の交流授業で日常生活を英語で表現する活動を中心とする授業実践	北条小・小田小・筑波東中の連携 新校舎での生活シミュレーション
12/18	1年1組 9年1組	クリスマスを話題とする表現を使つての異学年交流	つくば市小中一貫教育指導訪問 北条小・小田小・筑波東中の連携 新校舎での生活シミュレーション

<ゲーム的要素のある言語活動を取り入れた授業>

5月12日の授業では、**How are you? --- I'm happy.** といったやり取りを児童がたくさん発することをねらった小グループの言語活動を行った。サイコロを用いて出目の数の人に質問して、指定された感情カードを持っている人を探し出す。このミッションを与えることで、機械的に繰り返し英文を発するのではなく、Q&A のやり取りが発生する必然性をもたせた。単純な繰り返しによる練習ではないので、発話に「やらされ感」が少ない上に、無意識のうちにたくさん発話していた。児童は限られた表現を使うため、達成感を感じているようで、熱心な取組の様子が見られた。



11月7日・15日の授業では、課題として与えられた単語の綴りを完成させるために、アルファベットを集める言語活動を行った。**What do you want? --- I want a C card, please.** といったやり取りを中心とした。児童はブースごとのアルファベット・ショップに求めるアルファベットをもらいに行く活動を設定し、限られた表現を何度も使うようにした。児童は絵のように見えていた英単語を、アルファベットのつながりである単語の綴りに対する意識が高まった。グループ活動であったため、グループ内において、発話する表現をお互いに練習したり、確認したりする **peer training** ができた。自信をもって発話をする児童が多かった。



### 〈異学年交流授業〉

11月15日の授業では、6年1組担任と AET の通常のティームティーチング体制に加えて、中学校の英語教諭が入る体制で授業を行った。3人の指導者により、児童の活動を指示する際のデモンストレーションに複数のパターンをもたせることができたり、児童がグループで活動する際にグループへのかかわり(個別指導)を手厚くすることができたりする利点があった。児童も個別の支援を得ることで、授業の後半には自信をもった発話が見られるようになった。また12月11日の6年児童と7年(中1)生徒との交流授業では、既習の表現を使って6年生がインタビューをしたり、7年生がインタビューした内容を「他己紹介」に発展させて3人称の-(e)s がついた動詞を使った表現にしたり、と話す・聞く活動と書く活動をつなげた授業実践を行った。特に話す・聞く活動では、7年生を相手にしても臆することなく英語で質問をする6年生がおり、前時までの学習が活かされていることが確認できた。



12月18日の異学年交流授業は、1年生児童と9年(中3)生徒によるもので、クリスマスツリーに飾りをつけるために必要な語句、例えば **star, candy, reindeer**, を使った言語活動を取り入れた。今年度で6年目となるつくば市の小中一貫教育であるが、9年生は下学年の児童の面倒をよくみてあげて、学習の中でも優しく声をかけてあげる姿が随所に見られた。一方で、おしゃべりが大好きな1年生は、英語の単語であっても大きな声で楽しそうに発していた。



### 〈異学年交流授業の実施〉

異学年が交流する授業は、それぞれの学年の授業における「ねらい」を明確にし、教育計画を作る段階から位置付けていく必要がある。小中一貫教育を推進するつくば市の中でも、交流が位置付けられることにより、教育活動が動き始めるのが実状である。

今年度、外国語活動と外国語科を皮切りとして異学年交流授業を実践した。つくばスタイル科を中心に据えれば、多様な異学年交流授業を展開することが可能である。次年度から、本校は秀峰筑波義務教育学校としてのスタートを切ることになる。9か年の義務教育を系統的に指導していく中心に、異学年交流を位置づけ、特別活動や交流授業の充実を図っていきたい。